山陰中央新報（令和２年９月６日掲載）

ヨズクハデに稲束を掛ける参加者たち＝大田市温泉津町西田地区

稲束のピラミッド

大田市温泉津町西田地区の田んぼに５日、市有形民俗文化財の「ヨズクハデ」がお目見えした。地元住民ら約20人が丸太をヨズク（フクロウの別称）状に組んで刈り取った稲の束を掛け、秋の風物詩を作り上げた。９月末まで見られる。

（錦織拓郎）

ヨズクハデ 堂々お目見え

全国的にも珍しい形で、西田地区で受け継がれている。この日は地区住民でつくる「西田ヨズクハデ保存会」と地元のまちづくりグループ「酒仙蔵人・五郎之会」の会員らが、交流施設「コミュニティよずくの里」近くの田んぼで作業した。

参加者は長さ5メートル前後の丸太4本を四角すい状に組み、2基を作成。

収穫した酒米 田 500束をリレー 大

収穫したばかりの酒米「亀の尾」約500束を、リレー方式でハデ木に掛けていった。

同保存会の中井秀三会長(75)は「先人が引き継いできた伝統の価値を、次の世代にも伝えていきたい」と述べた。

例年は地区内にもう数基、住民や地元の小学校児童らが作るが、今年は新型コロナウイルスの感染防止対策で取りやめる方向。